

I. 諸因子の胎児に及ぼす影響に関する研究

分担研究報告書

奈良医科大学

一條元彦

A. 周産期感染症に関する研究

- ① 新生児、特に早産児では免疫能が未熟なため易感染性を示し、かつ感染も重篤化する。

早産児において好中球貧食能・殺菌能、血中Clq, C₄, C₃, Factor B, Factor H値などを検査すると何れも低値を示した。

またNK活性、Augmented NK活性、およびIgM産生能、IL-1産生能なども低値を示した。しかし、IL-2産生能、BCGF産生能は高値であり、また異刺激に対する補体系別経路の反応は良好であるなど、免疫能の総てが劣性とは限らず、これらを充分理解した早産児対感染症管理を考えて行かなければならない。

- ② 胎内感染の診断には胎児・新生児血のIgM分画の抗体を検出することが重要であるが、技術的に困難な点がある。最近開発された、間接赤血球凝集反応による抗単純ヘルペスウイルス(HSV)抗体測定キットを用いて、HSV感染時のIgM抗体測定を試みたところ、良好な成績が得られたが、なお今後の課題として測定系からIgG、IgAを如何に精度良く除去しうるかの検討が必要であろう。

- ③ 前期破水、特に妊娠中期に発生する前期破水では胎児が未だ発育途上にあつて、子宮外生活の適応性が不充分である為、可能な限りの長時間、胎内感染を防御しつつ妊娠継続をはからねばならないが、最近、分担研究協力者の荻田らが開発した特殊頸管留置カテーテルは前期破水の対策に極めて有用な成績を挙げることが出来た。

- ④ 女性器に存在する微生物については流行などもふまえて絶えず検索する必要がある。最近2年間の妊婦の尿路感染症・産褥子宮内感染症の起炎菌を過去のそれと比較したところ、好気性のグラム陰性桿菌・グラム陽性球菌、嫌気性菌の何れにおいても著しい差を認めなかった。

破水後の羊水中細菌の約60%は大腸菌などのグラム陰性桿菌であつた。最近の女性器感染における特徴はクラミジアであるが、妊婦183例中4.4%に*C. trachomatis*が発見され、新生児95例中4例に結膜裏内から*C. trachomatis*が検出された。これらに関する詳細な実態調査、対策を検討したい。

B. 各種薬剤の児に及ぼす影響に関する研究

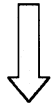
- ① 昭和61年9月から11月末までの期間中に全国23施設で取り扱った2231例の妊婦(胎児数は2270例)について、使用薬剤、母体合併症、児の先天異常などを調査した。妊娠前期・中期・後期・分娩時・産褥初期にはそれぞれ各期に特徴的薬剤の使用実態が明らかにされたが、概して鉄剤、子宮

収縮抑制剤の使用は頻度が高いと思われた。プロスタグランディン、抗生物質、消炎酵素剤、非ステロイド消炎鎮痛剤など母児に与える影響の強い薬剤については調査結果に充分留意して解析して行き度いと思える。

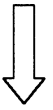
- ② 糖尿病合併妊婦は、調査対象27施設、分娩総数78,535例中512例に認められ、頻度は0.65%であった。この512例中より先天異常児出産は21例(4.10%)認められ、かなりの高頻度と思われた。奇形中著明なものは頭部奇形(28.6%)、心・循環器奇形(23.8%)であった。
- ③ 妊娠中毒症は約10%に認められた。妊婦の高血圧に対して、世界的にはhydalazine、 α -交感神経作動阻止策などが汎用され、我が国でも同様の傾向を認めるが、投与方法については施設毎にかなりの相異があり、検討すべき事項が多々ある現況が指摘された。
- ④ 分娩時の麻酔法について、79大学、165施設を対象に調査し、腰部硬膜外麻酔、陰部神経ブロック、ジアゼパム、ペチロルファン、ラボナ錠、笑気、ペンタゾシンの順に多用されている実状を把握した。次年度以降これらを解析し度い。

C. 嗜好品等の児に及ぼす影響に関する研究

妊婦の喫煙が胎児発育を障害することは既に明らかであるが、受動喫煙passive smokingの場合でも問題がある。すなわち1日6~20本の喫煙妊婦、1日5本程度の喫煙妊婦、および家庭内外で強度の受動喫煙を受ける妊婦、また喫煙の関与の全く無い妊婦のそれぞれの尿中cotinine濃度は $496.3 \pm 280.0 \text{ ng/ml}$ 、 $251.6 \pm 52.1 \text{ ng/ml}$ 、 $91.8 \pm 38.2 \text{ ng/ml}$ 、 $5.32 \pm 0.7 \text{ ng/ml}$ であった。妊婦尿中のcotinine濃度と児のrelative birth weightとの間には有意の相関があるため、胎児管理の立場から考えると妊婦尿中のcotinin濃度を測定して妊婦に個別的啓蒙・指導を行うことも有意義な方策と思われた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



- A . 周産期感染症に関する研究
- B . 各種薬剤の児に及ぼす影響に関する研究
- C . 嗜好品等の児に及ぼす影響に関する研究